

九州中国倶楽部 Kyushu China Club

KCC九州中国クラブ会報第5号（主な内容）

巻頭「中国の外資利用状況と方向性」座談会から収録、中華人民共和国駐福岡総領事館	王 領事
予告「秋の研修旅行地の上海とその周辺」	(株)ハルクジャパン 畢波人 (ビ・ナミト)
話題「NewsWeek」誌・世界の熱い十大都市・福岡の評価	翻訳文紹介
会員企業さん訪問 (株)トリプルアットコーポレーション	荒木謙吉社長 事務局取材
報告「第1回定期研修会」	アジアネット福岡 田中 講師
連載「中国税制について」第5回	篠原三子雄
報告「2006年九州中国クラブ定期総会」	クラブ事務局
お知らせその他	上海ツアー催行月日が決定 13～14 ページ

中国の外資利用状況と方向性！

この記事は最近開催されたある座談会で王領事が中国語で発表された講演を翻訳してご紹介しています。



ごあいさつ

皆様が長い間中国経済の発展に注目して下さっていることに感謝いたします。今日は主に中国の外資利用状況と今後の発展についてお話させていただきます。皆様もご存知のように、中国経済は急激に発展しておりますが、外国からの投資は中国の経済において重要な役割を果たしています。このことについて二つの面から説明したいと思います。

中国の外資利用状況と特徴

ご存知のように、外国の直接投資を受け入れることは、中国の対外開放や市場経済建設の重要な要素となっています。また、グローバル化する経済への順応や国際分業への参与という点からも重要なことです。中国は改革開放からの27年で、投資環境と市場の環境を日一日と改善し、多くの外国企業の対中国投資を受け入れることで、世界の中で外国からの直接投資が最も多い国の一つになりました。

数字からわかること

2005年12月末までの統計によると、192の国家と地域からの投資者が中国で設立した外国投資企業は累計55万社以上で、第1、第2、第3次産業のあらゆる業種に及んでおり、実際に投入された外資は6000億ドルに上ります。世界トップ500の多国籍企業の内、450社が既に中国投資を行っており、その内30社が(アジア)地域の本部を設立し、設立された研究・開発機関も600以上に上ります。

中国の外国直接投資の受け入れについていくつかの特徴を具体的に述べてみます。

1. 製造業が主な投資分野

2004 年末の統計によると、製造業に投資している企業は全外国企業累計の 72.57% を占めています。不動産業は第 2 の投資分野で企業数の 83.9%、卸売り・小売業は 4.96%、レンタル業、サービス業がそれぞれ 3.56% と 3.37% となっています。

第 1、第 2、第 3 次産業別に区分すると、それぞれ外国企業総数の 2.84%、75.0%、22.16% で、契約額はそれぞれ総額の 1.94%、68.27%、29.79% を占めています。



2. 外国の投資は主に東部地区に集中

東部地区は全国の外国直接投資総額の 86.25%、中部と西部地区はそれぞれ 9.16% と 4.59% を占めています。これは交通の利便性、インフラ設備の建設状況と密接な関係にあります。

3. Win-win の関係：中国は多国籍企業にとって重要な利益源となっています。調査によると、現在、在中国の外国企業の内 2/3 が黒字で、中国で業務を行う多国籍企業の約 2/5 が全世界平均の利益率よりも高い数字を記録し、1990 年から 2004 年までの間、外国投資者の得た利益は 2500 億ドル以上に上っています。

中国アメリカ商会が最近、会員企業 450 社に対して行った調査によると、2004 年は 68% のアメリカ企業が黒字もしくは大幅な黒字を達成しており、86% の企業が前年よりも増収であったという結果が出ています。外国投資企業は既に中国経済の重要な要素となっており、統計によると 2004 年の外国

投資企業は工業増加値 1 兆 5240.5 億元、増加率 18.8% で同時期の全国工業増加値の 210% という高さを記録し、全国の工業増加値の 27.8% を占めています。全国の固定資産投資における外資の実際の利用額をみると、1993 年—2002 年の 10 年間はずっと 10% 以上で、ここ 2 年は 8% 前後、輸入額は全輸入総額の 57.8%、輸出額は全輸出総額の 57.1%、納税額は 5355 億元で全国税収総額の 20.8% を占めています。

外国投資企業の就業者数は約 3000 万人で、都市部の就業者人口の約 10% に当たります。このたった二つのデータからでも、中国の外資導入が win-win の関係、つまり中国経済の発展を促進するだけでなく、外国企業に中国投資の成果として多大な利益をもたらしているのです。中国は既に多くの外国投資企業の生産と販売の土台としてのみではなく、その投資戦略の重点としますます多くの多国籍企業を引き付けています。



新時代に入った中国の外国直接投資利用の基本的方向性

(1). 新時代に入った中国の外資利用環境と潜在力いわゆる新時代とは何かを、主

に以下の点から見てみます。

1. 2006年から中国は第11次5ヵ年計画を開始します。2010年に1人平均GDPを2000年(7081元/人)の倍にすることを目標としています。これを国民経済発展における新しい一歩として、中国が世界経済の発展においてさらに重要な役割を果たそうとしていること。
2. WTO加盟後の過渡期であり、改革開放をさらに進め、開放型の経済は新しい段階に入り、世界経済との一体化がさらに増すこと。
3. 社会主義市場経済体制の完備。市場のルールを標準化し、中国企業・外国企業が良好な投資・経営環境の中で新たな発展を手にすること。
4. 経済構造・産業構造と製品の構造は新たな段階にあります。その内、経済成長と対外貿易方式の転換は、世界の産業構造の変化・転換、さらにはハイテク産業が引き続き好調に推移している中国市場においては、新しいチャンスと巨大な発展空間を提供していること。



これらのことから、中国経済の全方位的対外開放と市場経済体制の軌道修正に伴い、中国は既に世界の理想的投資地域の一つとなり、外国投資が中国経済発展に果たす役割はますます重要になっています。

これからの数年は、中国経済発展の新时代として、外国投資者が中国という投資

スポットで壮大な計画を展開するチャンスでしょう。中国も外国企業の皆様に、このチャンスを捉えて持続、高速、安定的に成長する中国経済の建設と提携に積極的に参加していただきたいと思います。マーケット上で流行している言葉に「お金があれば皆で分けよう」という言葉があります。これも中国の外資利用に際する基本原則です。

中国投資の見通しは明るく、それにはいくつかの理由があります。



1. 中国市場は巨大で発展の余地も広大

2005年中国経済は安定的かつ高い伸びを示しました。GDPは18兆2300億元で、前年比プラス9.9%の伸びで、財政収入は5232億元の増加で3兆元を突破し、住民消費価格総水準は1.8%上昇しました。国民経済は高い成長を示し、価格は比較的安定しているという好ましい状況です。貿易輸出入総額は、1.4兆ドルで23.2%の伸びを示し、外国直接投資の実質利用額は603億ドルで、昨年末中国の外貨準備高は8189億ドルに達しました。さらに、現在中国国内に居住する人々の貯蓄は15兆ドルで、中所得者人口は毎年2千万人増加しています。東部沿海地区の一人当たりGDPは既に2000ドルを超え、住居、自動車、教育、旅行などは既に新しい消費対象となっています。2020年までに中国市場の総需要は2000年の4倍を見込んでいます。このような市場規模と発展の潜在力が中国投資を行う外国企業の目の前にあるのに、心を動かされない企業があるのでしょうか。

実際、外国企業が中国に進出するのは、中国の低コストの活用と、更には巨大な市場に狙いを定めているからでしょう。2004年は統計によると、外国企業の中国国内での製品販売額は4000億ドル、国際市場での販売額は3300億ドルで、これが一つのよい例でしょう。

2. 豊富な労働力と低コストは中国の長期的な競争優位

中国の労働力供給は十分であり、さらに高度人材と低コストは諸外国とは比較にならないほどです。労働集約型の業種を除き、知識・技術集約型のソフトウェア業に従事する人材のコスト的優位は明らかです。例えば中国のソフトウェア関連の人材にかかるコストはアメリカの同レベルの人材の1/9ですし、インドの1/2です。それが中国は更に多くの多国製企業の投資を引き付ける優位性となっています。これから10年で、少なくとも数千万人の大学卒業生がその中に加わり、人材供給を保障する巨大な貯水池として、また高度人材のコストを保つ競争優位を備えた調整器の役割も果たしている。

3. 日増しに完備されるインフラ施設と良好な投資設備環境の創造

現在、中国の高速道路総延長距離は3万キロに達しており、鉄道の総運行距離は7.2万キロで世界第3位です。港湾の貨物取扱量は41億トン、電話ユーザーは6.5億戸を超え共に世界第1位、インターネットユーザーも9400万戸で世界第2位です。今後数年で中国の交通、通信インフラ施設はさらに発展・完備され中国・外国企業だけでなく当該分野における多くの提携の機会と潜在力を秘めると同時に、ますます整えられていくインフラ施設も投資者により条件を提供していくことでしょう。

4. 法体系を整え、投資者に安定的、予見可能な投資環境を提供する。

中国は2001年のWTO加盟以来、国务院の約30部門でWTOの関連規則と

中国の改革開放の需要に基づき約3000件の法律・法規と各部門の規則を整理・修訂し、その内800件以上が廃止されました。貿易関連、投資、知財権などの各方面も既に完備されており、開かれた透明性のある外商投資法体系は、投資者に安定的で予見可能な投資環境を提供します。

知財権の保護は一貫して多くの人の、特に世界の80-90%の特許技術をもつ多国籍企業が関心を寄せる問題でした。中国政府は知財権の保護を非常に重視し、知財権保護指導チームのリーダーを、国务院の呉儀副総理自らが務めています。国家のリーダーから各政府部門に至るまで、知財権の保護を強化し、刑事罰も重くしています。2004年は約2000人に対して刑事責任を追及しています。今後中国は引き続き法制度の構築とその宣伝・教育という二つの方面からさらに知財権の保護を強めていき、積極的な予防と知財権関連の犯罪行為を厳しく取り締まっています。これは諸外国の知財権所有者の利益を保護するだけでなく、中国经济の発展と中国自身の利益にもつながることなのです。



今後の外資利用の方向性

「継続的・積極的な外資の有効利用」は「win-win型開放戦略実施」における重要な内容で、国家が制定した国民経済と発展に関する第11次5カ年計画の中に既に盛り込まれています。これは中国政府が発した重要な情報で、中国が引き続き外資受け入れ政策をとるという安定

性と連続性の表明です。対中投資を歓迎すると同時に外資利用の質を高め、対外資産業及び地区へと投資を導き、国内産業のレベルアップを促進します。そのため外国投資者は中国の外資利用に関するこの基本的方向性を把握しておく必要があります。その上で自らの切り口を探し、積極的に投資・提携の機会を探してください。ここで、以下にあげる点については特に注意が必要です。



対外開放の新しい重点はサービス業

現在、中国のサービス業の発展レベルはまだ低く、GDPの30%を占めるに過ぎません。そのため国家は「サービス業発展の加速」、「国際的・現代的サービス業への転換」を提起しました。中国の「WTO」加盟承諾により、2005年に外国企業による卸売業と小売業の持株が許可され、外資銀行の中国企業向け人民元サービス、外国企業の独資による建築会社設立を許可しました。2005年末にも独資による速達、貨物運輸、貨物代理会社設立を許可し、2006年末には外資銀行に対する全ての銀行サービスの提供、独資による鉄道貨物輸送会社の設立が許可されます。中国のサービス分野が更に開放されることによって、中国は未来の世界でもサービス分野の貿易増加が最大、最速の市場となり、外国企業の皆様にとって多くの提携の機会があることでしょう。

ハイテク分野は

外資を利用して推進

ハイテクは産業構造と競争力向上の鍵となるため、中国は先進技術を擁する投資プロジェクトを歓迎しており、さら

には研究開発センターの設立を奨励しているのも外資利用の質を高めるためです。現在、中国は外国企業の研究開発センター設立を奨励する一連の政策を制定中です。但し、「高消費、高汚染、低効率」の投資プロジェクトは制限あるいは禁止となります。

中国中部、西部と東北地区が

新しい投資スポットに

これらの地区は広大な土地と豊富な資源を有し、インフラ施設も改善され、レベルの高い科学技術教育も施され、経済発展の潜在力を秘めています。2. 中国は今まさに「中部勃興」、「西部大開発」、「東北旧工業基地振興」戦略に大きく力を入れており、外国企業の参与や進出のための措置、外国企業がこれらの地区で発展していくために必要な政府関連部門の援助も含めて、これらの戦略を支える一連の政策措置を打ち出していきます。

国有企業改革の加速は

外資にとってまたとないチャンス

「第11次5カ年計画」、つまり2006年から2010年まで、中国は国有大企業の株式化改革をさらに押し進めます。今まで独占されていた業種を改革し、市場参入の容易化、投資主体と財産権の多元化を実現し、非公有制経済（つまり民間）の国有企業改革への参与を奨励し、金融サービス、公共事業、インフラ施設などの分野への進出を支持します。これは外国企業にとってまたとない投資のチャンスを提供することになります。実力を備えた外国企業の皆様がこのチャンスを逃すことなく、中国経済発展の中ですべての利益を享受していただけることを願っております。ありがとうございました！

中華人民共和国駐福岡総領事館

領事 王 紹宗

翻訳 中日ビジネスサポート(株) 島田駿一

今秋、訪中を予定している 上海とその近郊！

中国に精通した日本人の目線で上海付近の
最新スポットを紹介いたします

上海、中国最大の経済都市。面積は約6341平方メートル、1400万人が暮らしています。数字から見ますと、車などの交通手段を利用しないと回れないようですが、実際、外国人（観光客）が尋ねる上海は、黄浦江西部の市街地区で、地図上では、ほんの小丸にすぎません。しかし、多忙の日本人の方たちには、かなり多い観光ポイントではないかと思えます。

今回は、上海1泊2日のバーチャル観光を、畢波人（ピナミト）がご案内させていただきます。

福岡から上海への航空便は、一日4便運航しております。日本航空を始め、中国国際航空（全日空と共同運航）、中国東方航空2便となっております。今回は中国東方航空利用したと仮定いたします。福岡発10:00、上海着（現地時間）10:30です。まずは、上海の空の玄関「上海浦東国際空港」に到着、ここは、中国最大級の国際空港です。上海には「上海虹橋空港」もありますが、現在は国内線専用となっております。入国審査、税関を通過後、観光バスにてご案内していきます。上海浦東国際空港から市内まで高速道路利用して約1時間30分ぐらいです。高速道路の隣には、世界最新技術を使用したリニアモーターカーが走っております。最高速度430キロメートル以上、車で1時間の道程を約8分で結んでおります。

次に食事、昼食は、中国名物飲茶をお召し上がりください。上海の飲茶は、小食（シャオチー）であり、ショーロンポーやチマキ、肉まん、ゴマふりだんごなどをいいます。シャオチーとは軽食やおやつの意味です。今回は香港式の飲茶を食べて頂きます。メニューは、前菜4種類、ショーロンポーや肉まん、野菜まん、大根を原料とした点心を中心とした8種類の飲茶をご用意。前

菜またはショーロンポーでビールを飲まれるのもよいでしょう。

食後には、一つ目の観光地『豫園』ヨエンへご案内します。中国のイメージにピッタリの観光地でしょう。ここ『豫園』、江南地域の古典庭園の中でも特に優れたもののひとつになっており、面積は約2万平方メートル。明代、四川省のある役人が我父へのため造営したものであります。1559年着工して19年の歳月をかけ、1577年に完成した私庭園です。完成当時は、約5万平方メートルありました。三穗堂、万花楼、龍壁などじっくり見学すると半日は必要です。観光後、100年前の雰囲気と中国茶を楽しむ茶屋などもあります。

次にご案内するのは上海博物館です。上海博物館は1996年10月12日全面オープン、総床面積は、3万8000平方メートルで、方形の箱にバームクーヘンを載せたような建築物。4階建てで、1階中国古代青銅館、2階歴代書法館、絵画館、3階古代玉器館、歴代銭幣館、4階少数民族工芸館、歴代印館と中国最大級の規模を誇ります。1階入口には、日本語解説機がありますので、十分に理解をしてもらい、楽しんでいただけたらと思います。



旅行では、時間の流れが速く感じるものであります。もう夕食の時間となりました。今回ご案内いたします夕食は、やはり、上海蟹しかありません。上海を代表する料理にはいろいろありますが、日本でも最も有名なのは、間違いなく上海蟹でしょう。上海蟹は、長江流域で捕れる淡水蟹です。大きくても手のひらほどの大きさ。最も美味しい時期は、10月下旬から年明け頃と言われております。一般的には、ゆでて食べますが、本日ご紹介いたしますお店は、上海蟹コース料理です。前菜、スープ、メイン、デザートとすべて上海蟹を使っております。なかなか行けない海外旅行には、なかなか

食べられないものがよいでしょう。

夕食後、南京東路とバンド（外灘）へご案内致します。南京東路は、19世紀に開発をされ、上海で最も歴史がある繁華街。東京でいえば銀座にあたります。上海を訪ねた人は必ず行くという場合で、ショッピング、食事、エンターテイメント何でも楽しめる所です。夜になりますと、多くの電飾の看板が点灯し、よくテレビや雑誌に取り上げられる風景を見ることができます。また、バンドは19世紀から20世紀前半にかけて造られたヨーロッパ式の石造ビルが立ち並んでおります。また、対岸には『新しい上海』を見ることができます。近年開発を続けております、浦東地区を見渡せます。『昔の上海』と『新しい上海』を見比べることができる観光ポイントとしても有名です。



本日の観光はここまでです。もう少しという方には、『新天地』をおすすめします。中国最先端の上海、その上海の最先端はやはり『新天地』です。戦前の建物をそのまま利用して、レストラン、カフェ、バー、ライブハウスなどのおしゃれな店へ大変身。夜遅くまで営業しております。お気に召すままゆっくりとお過ごし下さい。

2日目は最初の観光は、『玉仏寺』にご案内致します。1882年に設立された上海最大の寺院です。こちら最大の見所はマンマーから持ち込まれた玉仏座像です。玉仏は、高さ195cm、幅135cm、白玉のボディにはヒスイやメノウが埋め込まれて、かすかに微笑している表情が神秘的です。

次の観光地は、『東方明珠塔』。ここは、

世界第三位、アジアで一番高いテレビ塔として有名です。上海市内のどこからでも姿を見ることができます。263Mと350Mの所に展望台があります、上海の町を一望できます。是非、ここで記念撮影をされるといいですね。



上海1泊2日のバーチャル観光もいよいよ終わりに近づきました。最後の食事は、『火鍋』です。『火鍋』は上海に限らず、中国全土で食べられています。日本でいうしゃぶしゃぶと非常に似ています。中国での特徴は、なべにはじめから味付のスープをいれてあり、その多くは、あっさりタイプの白スープと激辛の赤スープに分かれております。スープを選んだら好きな具を入れていく。具は、野菜、豆腐、春雨、魚、豚肉、牛肉、羊肉、内臓などいろいろあります。ひとつの鍋を家族・友人で囲み、会話をしながら食べる人が多いです。



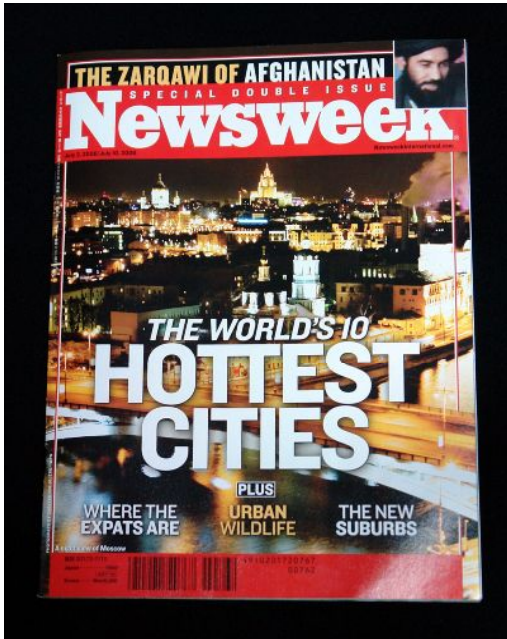
上海浦東国際空港より18:00発の中国東方航空にて福岡へ。

上海には、まだまだ美味しい、面白い所が沢山あります。是非とも、皆様ご自身で上海を体験し感動して下さい。2日間の擬似ツアーお付き合い誠にありがとうございました。

身近な話題をご紹介します

世界的に権威ある NEWSWEEK 誌 2006 年 6 月 10 日号に世界で今最も熱くダイナミックに変貌を遂げている世界の 10 都市に福岡市が選ばれました。

英文版 表紙



雑誌に掲載されている英文の評価を福岡市のスタッフの方達が翻訳されたものを原文のままご紹介しました。(元原稿は東京在住の NW 誌記者柏木あき子の記述です)

アジアへのゲートウェイを標榜する都市はたくさんあるが、これはホンモノだ！日本で上海が一番近い都市はどこかわかるだろうか？ソウルが一番ちかいは？両方への答えは福岡で、彼らは自分達のことを「アジアに最も近い都市」と呼んでいる。日本の空洞化の脅威が高まった中で、沢山のメジャーブランド企業はトヨタからソニー、東芝、キャノンまで日本の最南端の島九州の首都福岡の内外の製造業に投資を続けている。これらの企業は全て、地理的位置とすばやい出荷が依然決め手だと言っている。日本企業のサプライヤーに近いことも決め手だ。キャノンだけは、工場が非常に高度にオートメ化されており、日本の高

賃金が殆ど影響しないと言っている。結果として、九州の製造業投資は近年 52% のもの早さで成長した。(昨年は 4% に落ちたが) 当地の人は九州のことをカーアイランドとかシリコンアイランドと呼ぶ。

福岡は九州の成長要因にうまく乗っている。市長の山崎広太郎は 1998 年の就任以来、福岡市をアジアのゲートウェイとして積極的に売り込んできた。もちろんそうした大胆な野心はこの地域の港湾都市では一般的だが、福岡はそれを実現している数少ない一つの例である。市の主要港、博多港は 6 年前から 50% も取り扱いコンテナ量が増えた。福岡空港は繁忙を極めている。地域の高速道路をよく整備され、他の日本の各地よりも混んでおらず、有名多国籍企業を惹きつける九州のもう一つの利点となっている。

トヨタは日本での第二の製造拠点（第一は名古屋）を九州に作った。今年世界的なリーディング自動車メーカートヨタはその高級車レクサスを博多港から中国へ積み出し始めた。当地の官僚はこのトヨタと最大の消費市場の結びつきは福岡がグローバル経済の主要な結節点になったしるしだと言っている。



福岡市の代表写真は、なんと東中洲の屋台ラーメン店の繁盛振りで記事とは全く異なった紹介で掲載されていました。

繁栄しているのは貿易だけではない。注目を引く企業の堅調な成長はサービス、小売、情報技術関連などそれらに供給を行う企業の雇用の増加を生み出した。福岡は長い間日本の観光客の間でも 2000 年を遡る

その豊かな文化遺産や 17 世紀の将軍時代からのセレモニーで数百の衣装を着たパレードを伴う有名な毎春のどんたく祭りなどで人気があった。現在は海外からの観光客を増加しており、過去 6 年間で 60% も増加した「アジアからの観光客がここでの消費を押し上げていることは間違いない。そして福岡は九州中から若い買い物客も集めている。彼らが福岡にエネルギーをもたらしている。とても大きなエネルギーを」と福岡に拠点を置く経済産業省の松田氏は言う。今までのところ、海外の訪問者は主に韓国からだが、もし福岡がその増大する野心を実現すれば状況は変わるだろう。福岡市は 2016 年の夏季オリンピックを誘致しており、東京を含むもっと大きなライバル都市に立ち向かっている。(終わり)



選ばれたその他の 9 都市

アメリカ	ラスベガス
イギリス	ロンドン
ロシア	モスクワ
フランス	トゥールーズ
ドイツ	ミュンヘン
ブラジル	フロリアナポリス
インド	ガジアバード
韓国	コヤン
中国	南昌

世界のなかで、これから最も熱くなる都市に福岡市が選ばれましたが、この位置づけになっているのは、福岡市独自のパワーだけではないようです。北九州地域の巨大工業生産力と福岡市に集中する周辺都市の消費構成に支えられたオール福岡チームが実態といった視点も必要のようです。

定期研修会第 1 回のご報告

年次総会で決定しました日中のビジネスをテーマにした定期研修会の第 1 回を 7 月 19 日、福岡サンパレスホテルで開催しました。当日は生憎豪雨の襲来予想で足元も悪く、お集まりを懸念しましたが熱心にご参加下さり大好評のなかで無事終了いたしました。



時間の関係で夕食をとりながら質疑応答を設定しましたが、聴講者、講師とも長時間にわたり熱い問題提起が行われきわめて内容の濃い勉強会になりました。研修会の内容についてアンケートを頂戴しました。貴重なご意見を大切にして次回開催に改善を重ねて参ります。

定期研修会第 2 回のご案内

定期総会の事業計画のなかで隔月ごとに会員各位の皆さまのお役に立つ勉強会の定期開催を決定しています。

非常に好評に終わりました第 1 回に引き続き第 2 回は、福岡に次ぐ中国との玄関、長崎港からの貿易実務に携わり、中国進出のためのコンサルティングを行っている、出島貿易株式会社・代表取締役、樋谷英一郎氏を講師とお招きして、北京オリンピックにつづく 2010 年上海万博までの中国市場の展望とその推移状況のお話を予定しています。

開催日時をスケジュールに

組み込んで下さい!

2006年9月20日(水) 18時開始

を決定しています。現在会場を選考中であり 8 月中旬までに確定して改めて個別にご案内申し上げます。

会員企業のご紹介

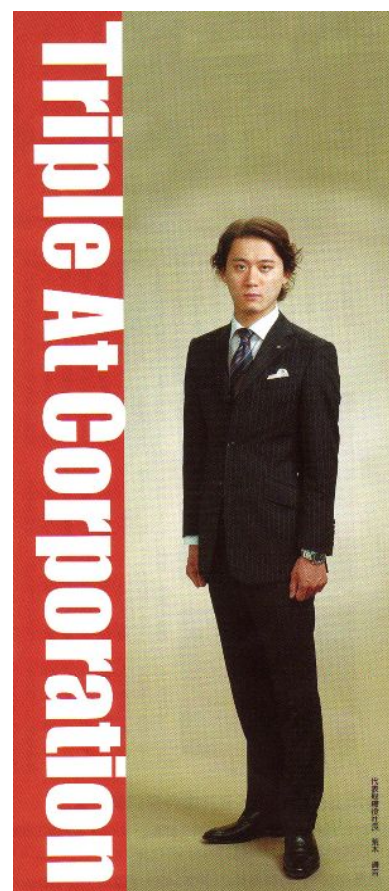


今回は、躍進めまぐるしい株式会社トリプルアットコーポレーションをご紹介します。上の画面のマークは、Triple At Corporation の頭文字を巧みに組み合わせた素晴らしいものです。

本社は博多全日空ホテルに隣接する福岡市博多区博多駅前の住友生命博多ビル13階にあって、博多区を一望できる素晴らしい会議室で、ご多忙な時間を割いていただき荒木謙吉社長から詳しくお話をお聞きしました。

社名	株式会社トリプルアットコーポレーション
代表取締役	荒木 謙吉
住所	福岡市博多区博多駅前3-2-8住友生命博多ビル13F
設立	平成13年10月
資本金	5000万円
従業員数	11名
事業内容	総合リース業、アセットマネジメント業
売上高	21億3238万円(05年8月期)
関連会社	(株)TACコンサルティング、(有)テンペストパワー、伸和建工(有)、対馬コンクリート(株)、(有)対州コンクリート、対馬コンクリート運輸(株)
URL	http://www.triple-at.co.jp

創業以来、リース事業に新しいビジネススキームを持ち込み、かつてなかったスタイルの総合リース業を展開し、業容を急速に加速してきた株式会社トリプルアットコーポレーション、同社を率いる荒木兼吉社長に現在の事業内容を尋ねると、即座に「お客様の設備投資にまつわる、主にファイナンス面でのコンサルティング」との答えが返ってきました。これまで培ってきた総合リース業のノウハウは、そのソリューションの一部として活用していくという考えです。



急成長を促しているそのビジネススキームだが、まず同社は顧客とリース会社の間立って、いわゆるコーディネーター的に総合資産運用を提案するというスタンスです。そして荒木社長は「他社のリースとは3つの大きな違いがある」と述べられています。

その1つは商社機能で、仕入、販売、設置までを同社が一括して請け負う。通常、企業がリースを組む場合、自社で対応物件毎に各メーカーと対応・交渉し、それぞれ決まったものをリース会社が請け負うこと

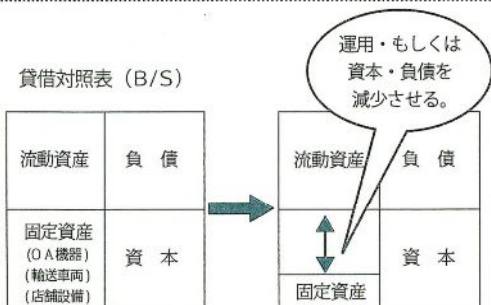
になるが、それを同社が一括して請け負い、リース会社とのネットワーク生かして有利に交渉を進めることが出来る。さらに同社は国内外30社あまりのリース会社に口座を開設しており、それらのリース会社と顧客との間に入って品揃えする。通常は間に代理店が入ると料金も高くなるが、同社の場合、顧客が単独でリースを組むよりもボリュームメリットもあり、多くのリース会社の中から選択する事が出来ることでより有利な交渉を代行するという競争力を持っているからです。

3つめは財務コンサルティング。一括してのリースバックやそれによる資金運用など、リースのメリットを最大限に生かしたコンサルティング機能もあり、この3つをパッケージングし、1つの商品として提案します。また、もちろん損害保険等も同時に組み込むことが出来る。つまり設備投資の際に同社に委託すると全てセットになって提案します。

新たな視点でとらえる TACの仕組みと流れ



TACではこれらをセットにしてお客様にご提案いたします。



そのビジネスを支える同社の組織は正社員5人、派遣・契約社員6人という少数精鋭で、それを「スリムな組織のスペシャリス

ト集団。その一人一人が自意識をもって任務遂行に手腕を発揮してくれている」と評する荒木社長。その総合的な経営判断の下、財務や営業等の各実務専門部隊が布陣を敷き、各案件にそく対応するという、外資系企業並の迅速な意志決定と実行力も同社の特長です。

不動産投資事業を本格化し上場を目指す（リアルエステート・インベストメント事業）まさに刻々と進化を遂げてきた当社だが、その事業のスタートは、パソコン1台でバーチャルなマーケットを動かして、どれだけの規模のビジネスができるのかと始めた自動車パーツのインターネット販売。この生い立ちからノーリスク、在庫をおかないなどの考え方は、終始一貫しているのです。今後は、設備投資において「上モノ」同様に不動産をより大きく組み込んだ提案に努め、不動産のオフバランス事業を本格化し、5年後をめどに JASDAC 等への上場を目指しています。



訪問後記

お会いした印象から、荒木謙吉社長は、32歳という若さでピンストライプスーツの似合った長身でスター的な存在の方でした。同席された椎葉取締役を筆頭に少数精鋭のスペシャリストの集団を率いた魅力的な企業の当主と実感しました。

トリプルアットコーポレーションのこれからの発展に大いに期待したいと思います

取材文責（事務局 北原正）

今月の会報に掲載する中国税制は「派遣者の個人所得税」「出張者の個人所得税」です。

I 派遣者の個人所得税

中国への派遣者への給与にかかる所得税は、基本的には納税義務が生じる場合を所謂「183日基準(短期滞在者)」によって判定します。すなわち1年間(暦年基準-1/1~12/31)の中国滞在日数が連続して、又は通算して183日を超えるか否かによって判断します。この183日のカウントには従来は入国日は算入、出国日は不算入であったが

2004年度から

- ①年間中国滞在日数カウントする際は入国日、出国日いずれも1日としてカウント
 - ②月次の納税額計算時には入国日、出国日、日帰り出張の場合はいずれも半日としてカウントすることに改定された。
- また中国において総経理、副総経理等の高級管理職の地位にあるもの、わが国において取締役等の役員の地位を有しているものの納税義務については別に判断する。

1 一般の派遣者にかかる個人所得税

① 個人所得税の納税義務者の区分と課税所得の範囲

中国で外国人が個人所得税を課税されるのは、永住者のように中国国内に住所を有している場合税務上の居住者の該当するか、非居住者でも中国国内に源泉所得を有し、かつ短期滞在者の免税規定が適用されないもの。

個人所得税法上、居住者とは前回会報に示した<納税義務者の区分と所得範囲>の表から判断できるように「1の税年度内に1年以上居住する個人」と規定されています。

実務的には1年以上の赴任期間が予定されている派遣者は赴任時に居住者と考えられますので5年以内であれば中国国内所得と、国外源泉所得のうち中国の組織単位又は個人が支払った部分が課税対象となります。

② 税額計算

派遣者の場合給与所得が主体と考えられますが、中国国内の役務報酬所得、利子所得等があればそれぞれ個人所得税を計算する必要があります。

a) 給与所得

派遣者の給与は居住者である限り支給場所のいかんを問わず、全額が課税の対象となります。

また現地法人が人件費の一部を負担し、差額を日本の派遣元が負担している場合や、日本の国内手当等(ex 留守宅手当)を現地支給分以外に支払う場合もこれらは中国国内源泉所得に該当するため当然のことながら課税対象となります。

前回会報に記したように税額を個人が負担するか、企業が負担するかにより個人所得税の計算方法が異なります。以下に算式を記します

<個人負担の場合>

納付税額=(費用控除後の税込み月額給与)×税率-速算控除額

<会社負担の場合> (GrossUp 計算)

納付税額=(費用控除後の手取月額給与-速算控除額)÷(1-税率)×税率-速算控除額

* 税率表は前回会報掲載参照、外国人の費用控除額は月当たり4000円

* 給与が外貨の時は申告該当月末日の公定レートにて換算

* 賞与については支給時一括個別計算

b) その他の所得

給与所得以外の所得がある場合、個別に個人所得税を計算する。税率は原則 20% 役務報酬、特許権使用料、財産賃貸料等は前回会報に記したように課税対象ですが居住者に対する課税は 20%の必要経費(最小 800 元)を認めている。
また利子、配当、割増配当は全額に対して課税する。

2 高級管理職に対する課税

日本の会社から派遣されている社員が、中国において総経理、副総経理等の高級管理職員等の地位を有している場合は、個人所得税の短期滞在者の規定（183 日基準）は適用されません。たとえ中国に常駐していなくても中国における国内所得(中国企業負担)は全額が課税対象となり、国外所得(派遣元負担)については中国滞在日数に応じて日割りで納税額を算出、納税。

紙面の都合上以下の項目については次回会報に掲載予定とさせていただきます。

3 本社役員の海外派遣者の給与等にかかる所得税

- (A) 役員の所得課税の特例
- (B) 中国での役員報酬の取り扱い
- (C) 日本法人から得る役員報酬の取り扱い

II 出張者の個人所得税

- 1 出張者の免税規定
- 2 免税条件 183 日基準・報酬の支払者・恒久的施設の負担の意味
- 3 滞在期間が 183 日以内と 183 日超の違い

残暑お見舞い申し上げます 急告！ 上海ツアー催行日決定です

ご参加希望会員さんのスケジュールの関係で、実施月日だけ先に決定のご要望がありました。お世話をするハルクジャパンさんが準備中のスケジュールから大枠の概要を発表戴きました。尚、詳細につきましては会報にご紹介していますように現在検討して準備しています。8月下旬に詳細な実施計画書と参加申込書をお届けいたします。

中国上海ツアー予定

実施日 10月20日(金)～10月22日(日) 2泊3日
訪問先 中国、上海とその近郊
予 定 10月20日(金)朝 福岡国際空港から 上海進出事業の見学 夕食会ほか
10月21日(土)終日 上海近郊観光とゴルフ(ご希望多数の場合)の2班編成。
終了後合流夕食会・上海夜景観光ほか
10月22日(日)終日 上海市内観光 夕刻福岡空港到着
費 用 ハルクジャパンの社長がリーズナブルな金額でと現地と鋭意折衝中で未定です。

実施日の変更はありません。航空機は中国東方航空利用予定です。

KCC06年度定期総会ご報告

2006年6月28日、福岡市中央区の福岡山の上ホテルでKCC九州中国クラブの定期総会が開催されました。その定期総会の概要をご報告いたします。



中国人民共和国駐福岡総領事館から王領事を、そして福岡市経済振興局進藤理事など関連団体の代表の皆さんを来賓にお招きして祝辞を賜り盛大に開催いたしました。村田会長の開会宣言のあと、上野副会長から前年の事業活動の成果報告、決算内容をご報告して会員の皆さんからご承認を戴きました。



引き続き2006年の事業活動案について会員の皆さんのご賛同を得て積極的な推進活動をお約束しました。



また、2006年度役員改選につきましては、現村田会長・上野副会長の継続就任を満場一致で決定して、本年度のお世話をお願い致しました。



第1部の年次総会終了のあと、中央区輝国、山の上ホテルから福岡全市を眺望しながら第2部の懇親パーティを開催しました。会員の皆さまのご協力によりまして、第1部、第2部ともに盛況裡に終了することができました。ありがとうございました。

会報に皆様の企業紹介 を掲載しませんか。

会報5号はトリプルアットコーポレーションを訪問して取材させていただきました。掲載を希望する会員の皆さま、掲載記事やそのスタイルは会員企業の皆さまのご希望に添えるよう自由な設定が可能です。事務局までご一報下さい。

九州中国クラブ事務局
福岡市中央区天神5-9-2-910
TEL 092-739-7505
FAX 092-739-7506

Eメールご連絡大歓迎！！
kchinaclub@w4.dion.ne.jp

九州中国クラブのホームページがほぼ完成しました。現在最終調製中です。9月1日から閲覧可能予定です。